

めでいかすとり Medicastre



「酉年の年男・年女」

年頭のごあいさつ



平成29年 年頭のごあいさつ

一般社団法人 鶴岡地区医師会
会長 土田 兼史

明けましておめでとうございます。会員の先生方、職員の皆さまには無事新年をお迎えのことと存じます。本年もよろしくお願いいたします。

今でも平成の年を昭和に置き換える癖が抜けない私は、平成29年が昭和なら92年に当たるということを先日発見しました。29と92、なんと憶えやすいことでしょう！ 仕事始めの日、私は早速この大発見を喜々としてある人に話したのですが、私より若い世代のその人に冷たく「それが何か」という顔をされ、はなはだ無念な思いをしました。同世代以上の会員の皆さまには私の喜びをご理解いただけるものと思っているのですが。

昨年から世界の景色が急に変化を見せ始め、今年はその変化がより具体的になっていく——しかも好ましからざる方向に向かって——という予感が外れることを祈るのが私の年明けでした。しかし、自分がコントロールできないことについて徒に思い悩むことはせず、自分がコントロールできる（と思われる）事柄に専心して取り組んでいこうと己に言い聞かせてもいるところです。

12年前の酉年、当時の齋藤壽一会長（還暦の年男でした！）は年頭のごあいさつの中で「地域の不況感はなかなか回復せず、また医療界でも青空は一向に見えてきません」と述べておられます（その後の12年も当時の会長の言葉をそっくりそのまま使わせていただいてもおかしくない状況であり続けたように思われます）。その一方で、齋藤会長は当時建設中の老人保健施設みずばしょうについての構想を希望に満ちた筆致で詳述し、さらに「その他の医師会事業も順調に進んでいます」と自信をもって述べられました。実際その後も、多少の波はあるものの医師会事業はおおむね順調に推移してきたのです。

しかし……数か月後には明らかになることですが、平成28年度の医師会の諸事業は、一部の

例外を除いてかなり低調な流れの中にあります。これは私の20年を超える役員生活において一度も見ることのなかった現象です。当然、考えられる要因は事業ごとに異なっており、ひとつの事業においても要因は単一ではありません。その中には「構造的」としか言いようのない、医師会のコントロールの及ばないものも含まれており、平成29年度以降の事業をどう展開していくか、慎重かつ大胆な舵取りと役員・職員の叡智の結集の必要性を感じています。

それと無関係ではありませんが、医療を取り巻く環境も、今後数年のうちに大きく様変わりしそうです。特に、県が進めようとしている地域医療構想に盛り込まれている病床の再構築は、変化というよりは変革と呼ぶべき内容となっており、地域の病院はもとより、開業医にも大きな意識改革と行動変容を迫ることになると思われます。

そのような厳しい環境の中で、私は会長就任当初皆さまにお示した所信を忘れず、ぶれることのない医師会運営を貫き通す所存です。

皆さまのさらなる応援と叱咤激励を切にお願いするとともに、平成29年が皆さまにとって幸多き年になることを祈念して年頭のあいさつといたします。



年頭のごあいさつ



当院における今年度の課題と予定 「山形県地域医療構想」への対応と 「療養病棟」の改変、大型改修について

鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院
院長 武田 憲夫

鶴岡地区医師会会員の皆様、医師会職員及びご家族の皆様、新年明けましておめでとうございます。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。旧年中は、当院運営に関して、色々ご指導、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新たな年を迎え、今後の当院の方向性に関連する重要な課題と、平成29年度から鶴岡市により行われます当院の大型改修について、現時点で分かっている範囲でご報告致します。課題については、未だ検討途上でありますので、現時点でのご報告という形にさせていただきます。

当院の将来の方向性を決める課題が2つあります。1つは、戦後生まれの団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）となる「2025年問題」に向けて、国指導での全国的な取り組みの一環として、山形県がこの9月に策定した「山形県地域医療構想」です（全文は山形県のHPにあります。<http://www.pref.yamagata.jp/>）。もう一つは、当院独自の問題として、平成28年4月に診療報酬上で改訂された、療養病棟入院基本料の基準の変更に伴うものです。

「山形県地域医療構想」は、県内全域の問題と県内4つの2次保健医療圏毎に今後の人口の減少、住民の高齢化、それによる疾病構造の変化、患者数の減少などのデータが示されており、それに対応しての医療側のあるべき姿が提示されています。それを受けて、今後、我々医療機関は如何に今後の医療環境の変化に対応し

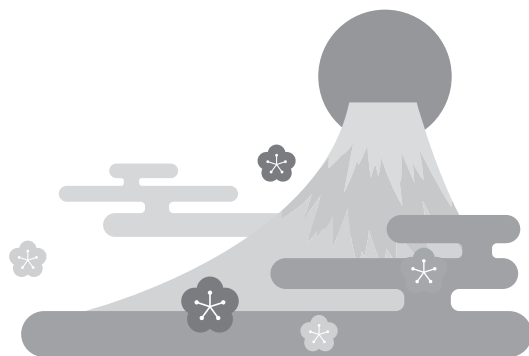
て行くかが問われています。病床の整理はその構想の根幹をなし、庄内2次保健医療圏での現在の病床数は2715床、2025年における必要病床数は2071床となっています。すなわち単純に見て、庄内医療圏全体で650床ほどの削減が目標になります。去る12月20日、鶴岡地区病院協議会(会長三科荘内病院院長、副会長神田こころの医療センター院長)が開催され、庄内南部地区の12の病院、有床診療所から41名が集まりました。まずは県から「山形県地域医療構想」の説明がありました。しかし、この時は地域医療構想の文章上の説明のみであり、病床の整理を、具体的にどのようなスケジュールで、どのような形で、どこまで実行するのかの明快な話しはありませんでした。600床もの病床削減は単に病床数の問題だけではなく、医療体制の再構築、経営基盤の再検討などが必要になり、病院の運用上も非常に大きな問題です。2025年まではもう10年ありませんので、これをやり抜くには、行政が信念を持って、しっかり説明、説得し、イニシアチブを取って実行して行くほかはないと思われます。私共は、庄内医療圏の中での病院の役割をしっかり認識し、医療レベルを上げ、責任ある体制を確保し、患者、職員に対して、責任ある安全、安心、安定した医療体制、職場体制を確立して行く必要性を感じています。

もう一つは、ここ2-3年以内に決めて行く必要のある内容ですが、当院の療養病棟(第2病棟 39床)の運用方法です。平成28年度から、療養病棟の入院基本料という診療報酬上の施設基準の入院患者重症度のハードルが高くなって、当院のこれまでの入院患者の状況からは、入院患者重症度をクリアーすることは困難と判断されます。すなわち、何も対策を取らないと、これまでのような医業収入が確保出来なくなる可能性があります。この制度の完全移行までの診療報酬上の猶予期間が平成30年3月で終了するため、それまでに当院の現在の療養病棟の運用方法を決める必要があります。選択肢としては、地域包括ケア病棟としての運用、回復期病棟としての運用、病院内の施設系病床としての運用など可能性としては幾つか考えられますが、それぞれ、制約や敷居の高さがあり、今後様々な状況を勘案して決めて行く予定です。

次に施設改修についてご説明致します。

私が院長に就任した平成25年(2013年)10月に、当時の鶴岡地区医師会三原会長と私とで、榎本鶴岡市長宛に、旧国立療養所の改築、開院後15年が経ち、老朽化、狭隘化した当院のハード面、ソフト面を検討して頂くため、当院の「将来のあり方に関する検討プロジェクト委員会」の立ち上げを強く要望致しました。それへの回答として、平成27年(2015年)11月、病院の老朽化した施設の更新、狭隘化している病院の改修案が榎本市長より提示されました。我々は新築移転も視野に入れての要望でしたが、当面は更新改修増築と言うことになりました。改修は平成29年度から始まる予定です。開院当初と比べ、職員数も増え、医療、看護、リハビリテーションそれぞれが、より専門化、レベル

アップがなされています。また、リハビリテーション病院に求められる役割も、以前より高度な、より重症患者に対応出来るよう、また多面的機能を持つよう要求されてきています。これまでの病院の施設は、手狭かつ老朽化してきており、医療の進歩に追いつくことが徐々に困難となってきており、患者さんにも、職員にも大きな負担、ご不便を掛けてきています。新時代のリハビリテーション病院としての役割が少しでも果たせるよう、この度の拡張、インフラの整備に期待したいと思います。工事期間中は色々にご不便、ご迷惑をお掛けすると思いますが、宜しくお願い致します。



表紙写真にご協力いただいた先生の紹介（敬称略）



 新年の抱負（年男・年女）

佐藤 元昭（佐藤医院）

一昨日、日大医学部の同窓生の住所録が送られて来た。第3外科に入局した8名の内生存者4名となっていた。83才にもなって仕事を続けていられることはありがたい事ではあるが動作全般が低下して来ている状態ではまもなく休止せざるを得ないと思っている今日この頃です。

齋藤 壽一（齋藤胃腸クリニック）

あけましておめでとうございます。

今さら年男といわれてもピンときませんが、年月の経過は実感します。

喜寿での北アルプス登山を目指して、頑張っています。

今年もよろしく願います。

藤吉 令（藤吉内科医院）

『初めての還暦を迎えたわけではありますが……』と当時の巨人長嶋監督が記者達に話していたテレビ風景を思い出し、とうとう私もその年齢になったんだなと感慨にひたり……。

振り返れば、私なりに高齢者社会における課題と向き合いながら医療・看護・介護サービスの各機能が一体となるかたちを理想に掲げ、突っ走ってまいりました。

『新たなる抱負がはじまりのスタートであります！』

西年らしく、直感力と行動力で新たなる野望に向かって羽ばたいていく所存です。

（一部、長嶋茂雄語録より引用）

福原 晶子（福原医院）

還暦を迎えたら、やめようと思っていたことがいくつかありましたが、いざそうしてみると、まだ少し頑張れそうです。皆様のお力添えを頂き、もう少し続けてみようと思いますので、どうぞ、よろしくお願い致します。

犬塚 博（犬塚医院）

あけましておめでとうございます。

干支の一回りはやいものですね。

健康と女房を大切に、これからも頑張ります。

三井 卓弥（三井病院）

あたり前ですが、12年ぶりの年男、次回の年男は還暦です。この間40歳を過ぎ、認めたくはなくても思うように体が動かない、やせにくいなど老化を感じるようになりました。まずは、現状維持を目標に頑張っていきます。

佐久間 和弘（桂医院）

地元に戻り父のあとを継ぎ16年、宮崎駿監督の映画の中での台詞「創造的人生の持ち時間は10年」という期限をすでに過ぎて、人生の再設計を考えることが今年の抱負のひとつです。

佐藤 孝司（宮原病院）

医者になって20年以上経つのに知識も技術もあやふやで成長してないことにはがっかりですが、それ以上にあちこち体にガタがきていることに驚いています。これからは体をいたわりつつ15年ぶりにゲレンデに行き子供と一緒にスキーでも習ってみようかと計画しています。

丸谷 宏（鶴岡市立荘内病院）

鶴岡に戻って今年で10年目。節目の年に新たな目標も考えてみましたが、まずは仕事も子育てもこれまで通り楽しみながら少しずつ前進したいと思います。今年は鉄道好きな息子（4歳）と一緒に家族でのんびり旅に出かけたいなあ。

安宅 謙（鶴岡市立荘内病院）

鶴岡で2回目の酉年を迎えました。視力の変化で年齢を感じる此の頃です。

知恵や経験を積み重ねて、診療を楽しみたいと思います。本年も宜しく御願ひ致します。

日時：平成28年11月12日(土)
場所：いろり火の里 なの花ホール

第10回緩和ケア市民公開講座開催される

緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川
センター長 鈴木 聡

今年で10回目を迎えた庄内プロジェクト主催、緩和ケア市民公開講座が平成28年11月12日(土)、昨年に引き続き三川町のいろり火の里なの花ホールで300名の地域住民を集めて開催されました。五十嵐信子さん(市役所健康課)、佐藤正さん(同長寿介護課)の司会で13時半に開会。南庄内緩和ケア推進協議会会長の土田兼史先生の主催者のあいさつ、来賓として鶴岡市長(代理：相澤健康福祉部長)、阿部誠三川町長のあいさつに続き、「庄内プロジェクト」についての講話(私、鈴木担当)、その後、庄内プロジェクト一座による寸劇「あなたが 家族が がんと診断されたら～2016～」が披露されました。5年ぶりに復活した寸劇では、緩和ケアを身近に感じてもらおうと意気込む9名の素人役者の奮闘ぶりに、会場からは惜しみない拍手と声援が送られていました。

特別講演は、俳優でタレントの小西博之氏をお迎えしました。コニタンの愛称で、欽ちゃん



ファミリーの一員として活躍していた小西氏は、2004年に約20cm大の腎臓がん(がんの大きさでは世界有数とのこと)が見つかり9時間におよぶ開腹手術を受けました。5年生存率0%の告知にもかかわらず、現在10年以上無再発のがんサーバイバーです。「生きている喜び」をテーマに、自らの闘病生活を披露してくれました。「闘病といっても、病気を治してくれるのは医師。あえて自らは病とは戦わない。最善の医療を提供してくれるお医者さんの言葉信じ覚悟を決める。自分の仕事は、病気が治った時に何をしたいかを考えておくこと。するとどんな治療にも耐えられ、希望の光が見えてくる。」前向き思考の大切さを自らの体験をもとに力説。「よ～し、手術が終わったら「徹子の部屋」に出演し、黒柳さんにこのでっかいお腹の傷を見せて驚かしてやろう。傷を触ってもらおうかな」と。聴衆は、人生を強く生きるひたむきさに感動し、いつの間にかコニタン・ワールドに



どんどん引き込まれていきました。マイクを使わずホール全体に響く肉声の大迫力には、ただただ驚くばかり。とてもかつて末期がんの宣告を受けた患者とは思えない豪快さでした。

アンケートの結果から参加者の8割は女性で、鶴岡市民が約7割、三川町民が約2割で参加者のほとんどは南庄内在住。特別講演の内容は95%が良かったと評価し、「すごく元気になった」、「生きている喜びを実感できた」との感想を多くいただきました。

2時間半の公開講座は協議会副会長の三科武先生のあいさつで閉会となりました。

緩和ケアを広く市民に知ってもらおうと毎年庄内プロジェクト主催で開催される公開講座は2008年から行われています。過去5年間を振り返ると、特別講師はいずれもがんサーバイバーで、園田マイコ氏（モデル）、杉浦貴之氏（雑誌編集長、シンガーソングライター）、岸本葉子氏（エッセイスト）、樋口強氏（作家、社会人落語家）が毎回我々に深い感動と生きる勇気を与えてくれました。さて、来年はどなたのどんなお話が聞けるのでしょうか。今から楽しみです。お呼びしたい講師がおりましたら緩和ケアサポートセンターまでご連絡ください。



新入会員の紹介

～平成 29 年 1 月 1 日入会～



氏 名：長 畑 守 雄

生年月日：昭和41年3月17日

生まれた所・育った所：東京都世田谷区

勤務先・診療科目：医療法人こまくさ会 庄南クリニック
内科、脳血管内科、放射線診断科

出身学校：山形大学 医学部

趣味・特技：ヨット、ジャズ（サクソ演奏）、
スキー（H元～H3年 北医体スキー回転競技優勝）

鶴岡地区医師会会員の皆さんへ一言：はじめまして、このたび縁あって五十嵐裕先生から医療法人こまくさ会を承継し、美咲町に庄南クリニックを開設します長畑です。これまで神経放射線診断学分野での学術活動と並行して脳血管内治療（カテーテル）医として青森と山形で急性期脳卒中診療の最前線に携わって参りましたが、50歳を迎えて一念発起。医学部志望当時の夢であった「町のお医者さん」として、これからは今までの知識と経験を活かして社会貢献していきたいと思っております。また当院では全身用高磁場MRIを導入しましたので、医師会の先生方からのMRI撮影・診断のご要望にも放射線診断専門医としてお応えしていきたいと存じます。どうかよろしくお願ひいたします。



氏 名：鈴 木 優 太

生年月日：平成2年5月9日

生まれた所・育った所：天童市

勤務先：鶴岡市立荘内病院（初期研修医）

出身学校：山形大学

趣味・特技：紅茶

鶴岡地区医師会会員の皆さんへ一言：よろしくお願ひします。



氏 名：千 葉 春 輝

生年月日：平成3年3月1日

生まれた所・育った所：仙台市

勤務先：鶴岡市立荘内病院（初期研修医）

出身学校：山形大学

趣味・特技：バドミントン

鶴岡地区医師会会員の皆さんへ一言：よろしくお願ひ致します。



氏 名：工 藤 俊 之 介

生年月日：平成3年12月27日

生まれた所・育った所：山形市

勤務先：鶴岡市立荘内病院（初期研修医）

出身学校：新潟大学

趣味・特技：登山

鶴岡地区医師会会員の皆さんへ一言：皆様どうぞよろしくお願ひいたします。



編集後記

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、日本で酉年といえば政治も経済も騒がしくなる傾向があるといわれているようです。ドナルド・トランプ氏のアメリカ合衆国大統領就任で世界経済や日米関係に大きな変化がもたらされる可能性があり、欧州ではオランダ総選挙、フランス大統領選・総選挙、ドイツ総選挙も予定されております。選挙の行方はヨーロッパだけでなく、世界中に影響を与えることが予想されているようです。また隣国の韓国でも大統領選が予定されており年初から動きのあった日韓関係についても先行きが心配されます。

スポーツ関連では3月にWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）が、8月に世界陸上競技選手権大会の開催が予定されています。日本チームや日本人選手の活躍を期待したいところです。

今年も昨年と同じく雪のない暖かな年明けとなりました。2017年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

（三浦 道治）



編集委員：三浦道治・小野俊孝・福原晶子・三科 武・佐久間正幸・木根淵智子・渡邊秀平

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町 1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております [鶴岡地区医師会](#)  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>